

クラシックと向き合う

松本秀峰 オーケストラ部が定期演奏会



本番に向けて熱のこもった練習をする部員たち

松本市の松本秀峰中等教育学校オーケストラ部は30日午後2時から、市音楽文化ホールで第3回定期演奏会を開く。発足から日は浅いが、クラシックと真剣に向き合い、技術を磨きレパートリーを広げてきた。部員50人が心を一つにハーモニーを響かせる。

(八代啓子)

ベートーベン「交響曲第5番」をメインに、モーツアルト「フィガロの結婚」など3曲を演奏する。弦楽器や管楽器のアンサンブル、コンサートマスターの中沢冬芽君(3年、同市物社一)ら3人が演奏曲の歴史や聴きどころなどを解説するプレコンサートトーク(午後1時45分から)

ある。もともと部活動の時間が少ないうえ、2月は大雪の影響などもあり練習時間が思うように取れず苦労した。滝澤愛部長(4年)は「『交響曲5番』は一番練習した曲。ぜひ聴いてほしい。音楽を通していろいろな人とつながり、出会いもある。そうした楽しさを伝えられる」と話す。

オーケストラ部は、同校が開校した2010年に11人で発足した。全員が初心者ながらこつこつと練習を積み、演奏会に挑戦している。顧問の瀬川伸教諭(36)は「クラシックに触れる機会はあまりないが、それを聴き、聞くことで楽しくなってきてている。演奏とともに生徒の姿も見えてほしい」と呼び掛けた。入場無料。松本秀峰中等教育学校(瀬川教諭)31・8311